

## ブランディング事業概要

2027年リニア開業を見据え、平成25年度からブランディング事業として、「発信力の高い著名人とのネットワーク構築」「市民主体プロジェクトの支援」「世界を受け入れる経験の蓄積」「民間企業との連携」など、地域ブランド確立に向けてさまざまな先進的取組を実施してきた。

令和2年度は、これまでの取組を基に、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした津田塾大学連携によるプロモーション企画や先端企業(株式会社KDDI)と連携した最新XR技術を利用した取組、丘フェスでのオンライン後夜祭などを実施した。



## 飯田市・津田塾大学連携取組

飯田市と津田塾大学は、2018年に連携協定を締結し、「AVIAMA総会」でのプレゼンテーションや通訳アテンド、キャンパス祭やT-CATでの水引ワークショップを実施した。

今年度は活動のオンライン化に伴い、映像コンテンツを制作。飯田市観光動画、飯田女子高等学校人形劇クラブに所属する生徒へのインタビューをもとに制作した人形浄瑠璃PR動画、パラスイマー花岡恵梨香選手協力のもと制作した車いすに装着するアクセサリ「Me's」PR動画、いずれも企画から編集全ての作業を学生が行ったことで、学生視点での発信を実現した。上記3点の動画について発表を行う。



ゲスト参加

●花岡 恵梨香 (はなおか えりか) 様

清水建設株式会社所属  
津田塾大学大学院  
理学研究科情報科学専攻修士課程修了

2014年、病気の後遺症により四肢麻痺となる。2016年リハビリのため水泳を始め、2017年3月より競技として本格的にパラ水泳を始める。2019年ジャパンパラ水泳競技大会で2冠、江戸川区スポーツ栄誉賞受賞など、現在もパラスイマーとして活躍中。



## 丘フェス月間内 オンライン丘フェス・後夜祭

今年で14回目となる丘のまちフェスティバルは、コロナ禍により、「丘フェス月間」と変更し、様々な実験イベントを開催した。特に、オンラインをメインにして実験開催した「バーチャル丘フェス」では最先端の技術を駆使してバーチャルな飯田市街地を公開して世界からオンライン参加を可能とした。

また、例年飯田市公民館にて開催している「後夜祭」は、オンラインZOOMソフトを使用した初の完全オンライン開催により多彩なゲストと一般来場者が参加した。福岡 俊弘氏をゲストに迎え、これらの成果報告と未公開ナミキCGの発表を行う。



### ゲスト参加

#### ●福岡 俊弘(ふくおか としひろ)様

元 週刊アスキー総編集長

デジタルハリウッド大学教授/編集者

1957年生 89年アスキー入社

92年よりパソコン情報誌『EYE・COM』編集長。

97年より『週刊アスキー』編集長。

ほかに2つの雑誌の創刊にも携わる。

TBSラジオ『デジ虫』のパーソナリティー『森本毅郎のスタンバイ』

コメンテーターを各3年務める。Editors' Lounge 主宰

昨年は、文楽と初音ミクを融合させた音楽劇「BUNRAKU -beyond

恋娘絢迷宮」の富岡製糸場での公演を演出

## KDDI(株) × 飯田市連携実証実験 「つながるバル」

飯田市とKDDI(株)は、2018年に地域活性化を目的に連携協定を行い、これまでに、「AVIAMA」において、飯田市の非常勤特別職に就任したKDDIのバーチャルキャラクター「レナ」によるxRガイドや、「いいだ丘のまちフェスティバル」における自動運転連動VR体験を実施してきた。

今年度はウイズコロナ時代における地域活性化を目的に、「2020飯田丘フェス月間」において、飯田の飲食店と札幌・東京をリアルタイムでつなぎ、日替わりのテーマに応じた食材や体験コンテンツを提供する実証イベント「つながるバル」を開催した。そのイベントの様相と今後の可能性について報告する。

